



金正恩に負けない政治家小池百合子の野望が叶うか

私は増田政治学によると金正恩は稀代の政治家であると述べてきた。

また小池百合子もしかりである。

私は、「ニッケイ平均株価は菅内閣の不支持率に連動して下げ続ける」と述べてきたのはご存知の通り。

ニューヨークの三市場(ダウ、ナスダック、S&P500)が連日史上最高値を更新する中で、ニッケイ平均株価は本年2月16日、史上最高値38,915円より8,448円安い30,467円を付けて以来、ニューヨーク株価が底値を上げ続けているにもかかわらず、ニッケイは底値を下げ続け、今や28,000円が超せない状態である。

コロナを終息させ、経済を元の好況に戻し、株価を上げれば必ず内閣の支持率は上がるのは日米欧共通している。

日本の憲政史上最長7年8か月の安倍政権を支えた二階俊博幹事長は菅政権の産みの親であり、引き続き幹事長を務めている。

国民世論がオリンピック開催に関し賛否両論で否が上回った2月、二階幹事長は菅総理に、「オリンピックを止めるなら一日も早い方がいい」と言った。

菅総理の取り巻きは親菅派で固まっているが、中に菅に忠誠を誓いながら実は菅降ろしを狙っている者が混じっている。

オリンピックまでにはコロナも終息に向かい、経済も上向きで、オリンピックを無事成功させ、さらに補正予算で株価を煽れば衆院選は楽勝と見て、絶対にオリンピック開催すべしで取り巻きは固まっていた。

菅降ろし派はコロナ4波、5波を予知していた上に、いくら補正と日銀が介入しても菅を嫌う外人仕手が東京市場で売り叩いてくることを知っていたので、菅親派同様オリンピック開催を強く勧め、菅に自滅の道を歩ませた。

コロナは収まるどころか感染者、死者数は増えるばかり、大型補正にも関わらず日経平均は下がるばかり。

思惑は総て外れ、菅降ろし一派は高笑い。

二階が2月オリンピック開催か否かを菅に選択させた後、開催を決めようとする菅を止めなかったのは、「腹に一物」あったからである。

東京都議会選と横浜市長選で「菅では衆院選は戦えない」ことが証明された。

岸田、高市、下村いずれも一国の総理の器ではない。

現行議員中総理としての器であり、世界に通用できるのは安倍晋三をおいて他にいない。

しかし、安倍のカリスマ性も迫力も、相手のアメリカの大統領がトランプなら通用するが全くカリスマ性ゼロのバイデンでは調子が合わない。

となるとかつて政権の道をあえて断念し都知事で時を過ごし、自滅の道を歩む自民党をしり目についに政権奪還の時を迎えた小池百合子登場である。

次の衆院選で小池に思う存分活躍して頂く為、そして自民党救済の為の小池新党との連立の為には、敗北保証付きの菅で衆院選を戦うのが望ましいと二階が考えたのは菅がオリンピックを決めた時である。

衆院選で自民党を敗北に追い込もうとする二階に自民党全議員、全党員は感謝すべきである。

二階と小池百合子は自民党の救世主となるだろう。

いや日本政治の救世主か？！

公明党？

ここまで誰のおかげでなれたのか、たまには考えたらどうだろうか。

それも今後の公明党の為だ！

<お知らせ>

次回「インターネット国際政経塾」(増田塾)は「重大な日になる9月10日からになります。

講義内容は8月30日発表します。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、

事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX: 03-3956-1313) までお知らせ下さい。